

20101

低電圧撮影における単純心臓 CT の有用性

【目的】冠動脈評価において心臓 CT が多く普及し、その進化を遂げている。被ばくの面では低侵襲な検査となりつつある反面、未だ造影剤腎症の問題を避けて通ることはできない。低腎機能患者における CAG の付帯情報として、単純心臓 CT の有用性について検討した。**【方法】** 単純 CT における冠動脈の形態学的な情報および病変部の性状評価と、CAG の情報を組み合わせることで、治療にどのように寄与できるかを検討した。撮影プロトコルは造影心臓 CT で用いているプロトコルと同じものを用い、得られた画像をワークステーションにて画像処理を行い、それぞれ VR, CPR, Slab MIP を作成した。**【結果】** 組織は必ず固有の CT 値を有する。単純 CT でもワークステーションを駆使することで、通常的心臓 CT に近い VR 画像を作成することができた。これにより、造影剤を用いなくても CTO 治療時のマッピングに役立つ。単純心臓 CT の付帯情報によって、CTO の手技が合併症なく完遂された。**【結論】** 当院は心臓血管外科が無いため、高度石灰化を伴う CTO 症例においてローターブレード等を使用することができない。そのため、閉塞部位の性状評価は重要となる。近年、造影剤腎症が大きく取り上げられ、特に循環器医師たちは積極的に造影剤低減を日々努力されている。単純 CT で持つ画像情報を最大限引き出し、医師へ提供することは我々の責務と考える。今回提示した単純心臓 CT における画像支援は低腎機能患者に対する CAG の付帯情報として、非常に有用であることが分かった。